

地域	現況・課題	今後に向けた対応策と要望
梅名	<ul style="list-style-type: none"> ○防災訓練と運動会を兼ねて行っている。 ○初期消火の訓練で、消火器の数を14本から20本に増やした。 ○炊き出し訓練の実施。 ○通学合宿、夢の風船だよりの実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ○独自のスローガンを掲げる。それをみんながわかるような場所に貼っておくことで意識させる。今年のスローガンは、「地域の心のきずなづくり」。 ○会議の際、きずなに関する新聞記事を必ず1つ紹介する。
鶴喰	<ul style="list-style-type: none"> ○八反畑と合同で消火訓練を行った。 ○消火器訓練、三角巾の使い方等を行った。 ○全員参加の呼びかけを行い、区民の3分の1弱が参加した。小中高校生の参加もあった。 ○高校生は、部活より防災訓練の参加を優先するようにと先生から指示があった。 ○町内会全員の名簿を作る事に、100%の人が了解してくれた。 ○高齢者・身体障害者の方が町内の行事に出てこない。 	
八反畑	<ul style="list-style-type: none"> ○鶴喰と八反畑の一時的な集合場所がない。 ○現在、八反畑幼稚園の敷地を集合場所として使っているが、廃園となった後のことが心配。また、区民の全員がここに集まることは不可能。 	<ul style="list-style-type: none"> ○水を確保できる場所を調べている。 ●水の備蓄が大事。(市長) ○災害時、農家に米を分けてもらえないか話し合っている。
	<ul style="list-style-type: none"> ○液状化が起こった場合、どうやって対応したらよいかわからない。 	<ul style="list-style-type: none"> ●液状化の対策はやりようがない。個人的な対策として家を建てる際に地盤を工夫する人もいる。それ以外の人は地盤改良にはとてもお金がかかるので、対策は難しい。(市長)

	<ul style="list-style-type: none"> ○町内の老人の三分の二が一人暮らしという現実がある。 ○要支援者が何人もいる。どうやって誰が救助するのか。 ○高齢者と子供たちの交流が積極的に行われている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○町内行事にとにかく人を集めることが課題である。町内会は学校と違って強制力がないので難しい。
安久	<ul style="list-style-type: none"> ○運動会の前に防災訓練を実施。町内会長が以前消防に携わっていたので、防災訓練には力を入れている。今年は今まで以上に関心が強く、成果があった。(スポーツ推進委員会) 	
八鶴悠和会	<ul style="list-style-type: none"> ○イベントに参加する人が少ない。 ○最近、親睦会や輪投げの参加者が増えてきた。 ○イベントに全く参加しない人もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○誕生日会の実施。全員参加を目指し、全員の近況を把握するように努める。
中郷小学校	<ul style="list-style-type: none"> ○年に4回の防災訓練を行っている。 ○津波を想定した訓練を行う。通常の訓練の後、津波を想定して校舎の3階に避難する。 ○学校にいるときに地震が起こった場合、親に迎えにきてもらう。フェアキャストを使う。 ○教員がどれだけ子供たちを誘導できるかにかかっている。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ○地域の人とどう関わっていくかは模索中。 	<ul style="list-style-type: none"> ●北小でPTA主催の訓練が行われた。参考にしてほしい。(市長)
	<ul style="list-style-type: none"> ○中郷小学校の体育館には避難者が入りきらない。避難生活をしなくてもすむようにしたい。(市長) 	<ul style="list-style-type: none"> ●自宅を耐震補強するなどの対策をとってもらいたい。(市長)
中郷中学校	<ul style="list-style-type: none"> ○松本幼稚園も中郷中学校に避難してくる可能性がある。 ○地域防災会議等行っている。 ○学校外で震災が起こった場合、子供・お年寄りを誘導するよう指示している。 ○避難訓練はすべて3階へ逃げるようにしている。 ○保護者が引き取りに来た場合も、3階に待機してもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○10月終わりに松本幼稚園と合同で訓練予定。

	<p>○地域の行事には参加させるようにして、積極的に地域の人達とのつながりをつくるようにしている。</p> <p>○訓練の際、組ごとに集まって中学校に行く。その年に1回の行事がきずなを作っている。(スポーツ推進委員会)</p>	
全体	◇各団体の組織の整備	
	<p>○若者が地域に残らない。(スポーツ推進委員会)</p> <p>○中間世代が子供たちを世話するボランティアを行っているのはよいことである。(中郷小)</p>	<p>○まずは自分の身の回りの近所に目を向ける。組単位のきずなづくりから始める。(スポーツ推進委員会)</p> <p>○子供たちと、地域との関わりを消さない努力が必要である。(中郷小)</p> <p>○自治会、PTAなどの団体相互の連携が重要。(八鶴悠和会)</p>
	◇訓練等の実施	
	<p>●中郷地域は部落ごとに運動会と防災訓練をやっているのが特徴。(市長)</p> <p>●子供が少なくなっているので参加者が減少傾向にある。(市長)</p> <p>(八半畑)</p>	<p>●訓練に参加しない人には、『津波で助かった人は普段防災訓練に出ていた人』であることを伝えてほしい。(市長)</p>
	◇災害時要援護者等の把握	
<p>○高齢者同士のきずなをどうやって作るか。(スポーツ推進委員会)</p>	<p>○「向こう3軒両隣のきずなづくり」が大切である。(八鶴悠和会)</p> <p>●訓練の際、災害弱者、要援護者をどうしていくかを来年に向けて考えてほしい。(市長)</p>	